

命を守る行動学ぶ たかおかこども園で防災訓練



紙芝居で地震発生時や避難時の注意点を学んだ

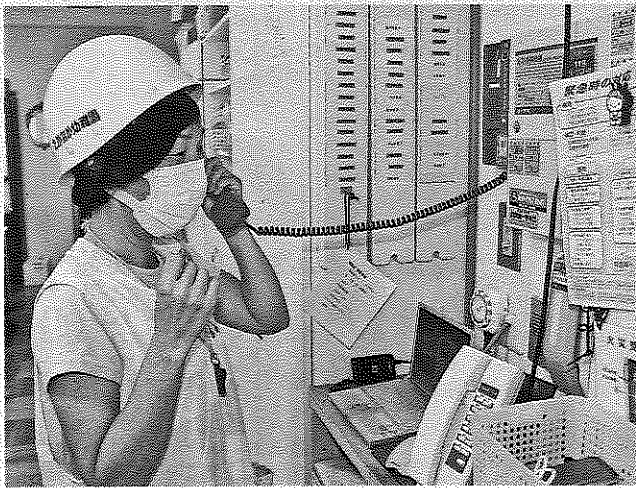
富士市厚原のたかおかこども園は「防災の日」の1日、巨大地震の発生を想定した防災訓練を行った。0歳から年長までの全園児約220人が参加し、命を守る行動や注意点へと理解を深めた。

地震発生を知らせる警報が園内放送で流れると、園児たちは一斉に机の下に隠れ、落下物から身を守った。揺れが収まると、職員の手で防災頭巾をかぶり、素早く園庭に避難した。年少クラスなどでは訓練が始まる前に防災頭巾の着用方法を練習した。

避難の際には「押さない」「走らない」「しゃべらない」などを心掛けた。職員は避難する園児が行列にならないよう、学年ごとのルールに誘導。3分ほどで全園児が園庭に整列した。

訓練後には年中児を対象に防災紙芝居「ナナちゃん、ヨッチちゃん、おちついて!」の読み

聞かせも行った。屋外で地震に遭った際に落下物から身を守る方法や余震で倒れてくる恐れがある危険物などをストーリー仕立てで解説。建物から離れた場所を歩ける広い道路を極力利用して避難するなど、避難場所に向かう際の注意も伝えた。職員室では火災の発生を想定した通報訓練を実施。消火器の使用方法も確認し、迅速な初期消火と通報の手順を確認した。



火災の発生を想定した通報訓練



防災頭巾をかぶり園舎から避難する手本を



冷静に園庭へ避難

地震が発生すると素早く机の下に隠れて落下物から身を守った

園庭では7年ほど前から毎月、地震や火災、防犯などのテーマで防災・防犯訓練に取り組んでいる。災害発生時に自分の命を守る適切な行動を取るための能力や意識を身に付けてもらう狙い。年度末には抜き打ちの訓練も行い、職員と園児の意識向上につなげている。渡邊宏行園長は「災害はいつ起こるか分からないので、毎月の訓練を通じてどのような事態にも職員が冷静に対処できる体制を整えておきたい」と話した。